

平塚市長選挙 選挙公報

平成31年4月21日執行

平塚市選挙管理委員会

平塚市民の思いを大切に

平塚が県西の旗手となるよう、「人を活かし、街が活かされる好循環社会」の実現に向けて

1 育てる

- 地産地消の配膳式による美味しい中学校給食を早急に実現。食育を通して子供の成長を支援。
- 小学校給食は無償化します。
- 地域の大学と連携し学力、知力、体力、人間力の向上を。
- 地域のアスリートやスポーツを支援し、健康都市平塚へ。

2 支える

- 児童虐待ゼロを目指し、児童相談所と連携。
- 育児優先・仕事優先・バランス型…子育ての選択肢を豊富に。
- 幼稚園・保育園・学童保育の拡充、病後児・病児保育の普及。
- 不妊、妊娠・出産・育児、ひとり親家庭で困っている市民を応援。
- 高齢者介護、障がい者雇用の支援。

3 繋がる

- 地元企業を優先し、平塚経済を活性化
- 治安維持向上のため、犯罪防止を強化
- 災害時の情報ネットワークを整備

4 整える

- 見附台地区の再開発を見直し、中心商店街と連携し西口エリアを活性化
- 龍城ヶ丘プール再開発は、県西エリアのランドマークとなる施設に。
- 神奈川県と連携し河川砂防の対策を行い、災害に強い街づくりを実現
- コミュニティバス・移動販売促進などにより、神奈川大学移転後も地域住民の生活の質を維持。

みんながいいきと安心して暮らせる平塚にしよう！



無所属 谷容子



たしかな平塚を。～子や孫へ、未来をつなげる～

子育て 中学校完全給食の早期実現に向け、調理場の整備に着手します。湘南初、中学校3年生まで小児医療費助成の所得制限を撤廃します。産前産後ヘルパー制度を創設。切れ目のない子育て支援をさらに充実します。保育園の待機児童をゼロにします。

スマイル100歳社会 認知症対策や40代からの健康長寿事業を強化します。UR高村団地を福祉・医療・介護・交通等、地域共生社会のモデルとして再生します。可燃ごみ戸別収集システムをモデル地区に導入し、ごみを出しやすくします。

2022年春、文化芸術ホール開館、中心街や西口を活性化し、にぎわいを創出します。駅北口に下りエスカレーターを設置します。2020年ツインシティ大神地区まち開き、平塚駅と連節バスで結びます。地域公共交通網も再構築します。がんばる事業者を応援、創業や事業承継の支援、農業・漁業の6次産業化を広げます。東京オリパラを生かしたまちづくりを進め、レガシーを創出します。

協働と行革を推進 協働基金を活用して、自治会活動や市民活動を支援します。PFI事業に市民意見を反映させる「平塚方式」など、新しい対話の形を広げます。ほっとミートイングを進化させ、新たな対話集会を始めます。窓口業務の民間委託を進め、案内係の配置など、サービス向上に取り組みます。駅ビル内に市民窓口センターを移設し、選挙の期日前投票にも対応します。

これまでも、これからも、平塚とともに ～昭和32年生まれ。神田小、神田中、平塚江南高、明治大卒。平塚市役所に22年間勤務。小・中PTA会長など地域活動にも取り組む。平成15年、平塚市議会議員にトップ当選、同19年に市議会議員に再選、議長、県市議会議長会会長。平成23年「動かせ、平塚。」で平塚市長に当選、同27年「選ばれるまち、住み続けるまちへ」で再選。平成31年4月、3期目に挑戦。



おちあひ 落合かつひろ 61歳

子育て世代の転入増、求人倍率や法人税収の回復など、明るい流れが平塚に生まれています。この流れを加速して、子や孫に「たしかな平塚」をつなぎます。同時に、県内トップクラスの健全な財政運営を堅持します。「令和時代の平塚」を、一緒に築いていきましょう。

投票日 4月21日(日)

投票時間 午前7時から午後8時まで